

## いわき市復興ビジョンへの提言(素案)に対する市民意見【キャッチフレーズ】

1

**いわきのキャッチフレーズとしては、「～虹を～」**

市民が一体化するものは、やはりフラガール繋がりがわかりやすいです。  
照屋実穂さんのフラガール～虹を～を聴くと、基幹産業だった炭鉱や水産業の大衰退も乗り切ったいわきは、この原発被害も乗り切れそうな気持ちになります。

2

**復興へ示せいわきの底力!!**

3

**復興へ今日は船出だ“いわき丸”**

4

**復興へ市民が握る“羅針盤”**

5

**復興へ市民が舵とる“いわき丸”**

6

**復興へ市民船頭の“いわき丸”**

7

**復興へ市民船頭の祝い船!!**

8

**復興は市民参加のハーモニー!!**

9

**復興は市民の知恵の輪心の輪**

10

**復興トップだ！みんなの「いわき」**

オールいわきとして、産学官と一般市民の力を結集、復興のトップを目指し、国へ働きかける強いメッセージとなります。

11

**みんなで創ろう！明日ある「いわき」**

12

**みんなで創ろう！再生「いわき」**

13

**福島復興を「いわき」から、みんなでがんばっぺ！いわき**

14

**いつも湧き上がる希望 いわき市**

15

**ライジング サン！いわき～未来をここから～！**

16

**みんなで呼ぼうしあわせをここに**

～日本の復興を「いわき」から、～も勇ましくてよいが、私が考えていたのは、市の歌の歌詞からいただいた

～ みんなで呼ぼうしあわせをここに ～ である。

40 数年前の歌———四半世紀振りに帰郷したら歌われていなかったのですでに廃された？———なので何分歌詞の一部に古さがあったり押し寄せる津波を連想させる箇所もあるが、市の歌が制定された当初はワクワクする元気が出る歌だった。

17

**～ ドンワッセ ～を冠する。**

東北の北に位置する青森市のねぶたはラッセラーのかけ声、南に位置するいわき市にはいわき踊りがある。

多くの方が震災で亡くなられたので全市をあげて踊りまくるのは無理でも躍動感のある元気な街の象徴してはいい。外に向けて情報発信に活用しない手はないだろう。

18

**日本の復興を『いわき』から～次世代型の新しいまちづくりを創造していくために～**

ビジョンのキャッチフレーズなので、いわき市のビジョンが端的に謳われる必要がある。

19

日本の復興を「いわき」からという心意気には大賛成です。しかし「がんばっぺ」「オールいわき」「オールジャパン」などの表現にはうすっぺらでうわついた、事柄の深刻さとかけ離れた空虚さを感じます。私たちは特に放射能に対しての無力さをいやというほど思い知らされました。これには農業者、漁業者を始めとしてどう頑張ればいいのか途方にくれている人々がたくさんいるはずですが、一般的な自然災害と全く異質の危機の中にあるという意識が文面から感じ取れません。郷土色を出して親しみを持つようにとか、スポーツ応援の感覚でとか、そんな状況ではないのです。例えば「オールいわき、オールジャパンでがんばっぺ」は、決意とか応援の表現のつもりかも知れませんが、しかしこの前に「何はともあれ」とつけるとしっくりいくように、この手の言い回しは、検討すべき詳細を無視した空念仏でもあります。

20

**東北復興の旗印にふさわしいいわきを目指して**

21

**笑顔いっぱい*の*いわきを目指して**

22

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

23～26

A 案



いわき復興へ！ひとりひとりができることを！

**ONE FOR IWAKI**

「ワンフォー オール オールフォー ワン」から、一人一人が「いわき市民」という意識を持ってもらい、その一人一人が「いわき市」のためにできることを意識してもらおうというスローガン。

B 案



ひとりひとりのパワーを！今いわき復興へ！

**Regeneration Power**

復興に向けて、一人一人が立ち上がろう！力を「いわき市」のために使って、復興させようと呼びかけるスローガン。

C 案

**いわき市**

ひとりひとりが誇れるいわき復興へ！

**KEEP PRIDE IWAKI**

世界に誇れる「いわき市」をつくっていく心意気と、一人一人のパワーが必要だと感じさせるスローガン。

「がんばっぺ！いわき」はスローガンではない。

「がんばっぺ！いわき」という言葉は、誰が言いはじめたのかわかりませんが、いつの間にか「いわき市民」の総意のように思われはじめていますが、私は納得していません。

委員の方の意見の中に“「がんばっぺ！いわき」のキャッチコピーであるが、ビジョンとしてここに載せるべきか。市民は、これ以上何をがんばればいいのかと思うのではないか。メッセージ性が違うように感じる。市民は自分と関係するところを見るものだから、市民に寄り添うものでなければならない”というお話をした方がいらっしゃいました。

その通りだと思います。

はじめに「がんばっぺ！いわき」と言いはじめたのは、いわき市民のどんな層でしょうか。

多分、それはいわきの企業の経営者、商売をやっている方ではないでしょうか。

スローガンとは、復興のためのコンセプトを、「誰にでも分かりやすく」「一言で言いきれもの」です。そして、そのスローガンの繰り返しにより、その「目標に全員が進んでいく」ようになるものです。

そのスローガンによって、人が心を動かされ、行動を起こすものでなくてはならないと思います。

「何を頑張るのか」がわからないような言葉は、スローガンにすべきではないと思います。

スローガンとは、復興のためのコンセプトを、「誰にでも分かりやすく」「一言で言いきれもの」です。そして、そのスローガンの繰り返しにより、その「目標に全員が進んでいく」ようになるものです。

「キャッチフレーズ」とは、厳密には別なものと考えた方が良いでしょう。

「キャッチフレーズ」は、その時々、状況によって変化してもいいものですが、スローガンは、ある期間において変わらず訴えかけるものと考えます。したがって、企業スローガンのように「復興いわき」を定義するものでなくてはなりません。提案では、どんな年代にも理解してもらえよう、「サブ スローガン」を日本語で付けています。

27

キャッチフレーズの「日本の復興を「いわき」から～」ですが、このキャッチフレーズはいらぬのではないかと思います。

理念も目標もミッションも何一つ表してない、悪い言い方で言えば「ノリ」だけでついている言葉のように感じます。

この体裁であれば、必要ないと思います。